

フランスの文学と文化

戦争体験を書く/描く

～ バルビュスとセリーヌ ～

講師：杉浦順子

広島修道大学 教授

7月30日(月) 16:20～17:50

会場：語学センター LL403A

概要：日本ではあまり注目されることのない第一次世界大戦は、ヨーロッパでは時代を画する重要な出来事として歴史に刻まれています。今回の講義では、この戦争の何がこれまでの戦争と違ったのか、またその未曾有の体験がどう作品に描きこまれているのか、この戦争を体験したバルビュスとセリーヌという二人の作家の作品から見ていきます。

Profile：専門は20世紀前半の小説、とくにルイ＝フェルディナン・セリーヌや二つの世界大戦と関わりのある作品、作家を研究対象にしています。訳書：フィリップ・ソレルス『セリーヌ』、アラン・バディウ&アラン・フィンケルクロート『議論して何になるのか』など。

* 本講演は「フランスの文学と文化」(担当：国際学部・大場静枝)の授業の一環で開催します。受講者以外の方の聴講も歓迎します。